

特集 〇 廃線敷を歩く

けやきの森自然園

旧篠ノ井線の仮設駅があった場所で、平成6年にマレットゴルフ場ができたことが公園整備の始まり。地元住民の手により、自滅しかけていた山野草を移植し、看板をつくるなど手作りの雰囲気魅力です。

また、廃線で使われなくなった信号機などを目にする事ができ、鉄道林として植栽された高さ30mのケヤキが憩いの場をもたらしています。



ここまでスタートから約40分が経過



手作りの看板

三五山トンネル



半径300mのカーブ中にあるトンネル。現在は鉄の扉で閉ざされ、封鎖されています。ここでいったん廃線敷を離れ、県道403号線に向かいます。



三五山トンネルを越えると街並みが見渡せます。

旧白坂トンネル前駐車場

スタート!



受付を済ませ、いよいよスタート。

明科の国道19号線、木戸の信号を西条方面に403号線を進み、4kmほど行った所に大きな駐車場があります。今回の記念イベントでは明科駅からこちらまでシャトルバスが出ました。



先着順で記念バッチがプレゼントされました。

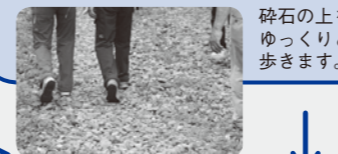


潮沢信号場付近



時々落ちてくる黒いゴムはレールの間に敷かれていたゴム。

道中には標識や架線柱など、鉄道の面影を多く残しています。潮沢信号場は昭和36年に開設。スイッチバック式の行き違い配線で、この近辺は県内最急の25パーミル(1kmで25m上がる)の傾斜。



碎石の上をゆっくりと歩きます。



漆久保トンネル



(上写真) トンネルの上には、木曾御嶽山を切り開いた普寛・覚明像が立っています。大昔の善光寺道で、旅人の安全を願い祭られたと言われています。

(右写真) 地元では「うるしゃくぼ」といわれている地名を冠したトンネル。総レンガ造りで、100年前の鉄道トンネルの典型として文化的価値があります。



漆久保トンネルは本年4月に再「開通」

6月28日に開かれた「あやめまつり記念ウォーキング」。参加者は、約6kmの道のりを2時間半かけ歩き、緑に包まれた廃線敷の初夏を満喫しました。

実際に歩いてみよう!

【レポート】約6kmのゆるやかなコース。3万本のケヤキ林など、見どころいっぱい。

市と観光協会が昨年末に発行した「安曇野トレッキングガイド」。人気の光城山・長峰山のコースとともに廃線敷コースが掲載。観光協会窓口などで入手できます。

潮神明宮



春祭りの「柴船」が有名な潮神明宮に到着



19号線を越え、犀川沿いを歩きます。

ゴール! あやめ公園



70種類のおあやめがお出迎え。「お疲れさまでした」。



ボランティアガイド

尾沢 洋さん (穂高柏原)

鉄道の跡なので極端なアップダウンがなく、トレッキング初心者にもおすすめ。基幹産業を支えてきた篠ノ井線の役割など、歴史的な面白さも魅力です。